

令和2年5月

首都圏段戸会
会員各位

首都圏段戸会
会長 福山 透

新型コロナウイルス感染拡大による今年度活動休止のお知らせ

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国各都道府県で緊急事態宣言が発令されております。首都圏段戸会ではこうした深刻な事態を憂慮するとともに、関係者への感染拡大防止の観点から、第48回総会・懇親会、会報の発行等、当初予定されていた今年度の活動をやむなく休止する判断に至りました。会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、活動休止に伴い、運営協力金のお願いも一旦保留いたします。また、インターネットによる段戸サークル活動等は引き続き行われます。詳細につきましてはホームページやメール配信を通じて随時ご案内をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

敬具



第47回 総会・懇親会報告

高63回 河原 宏太

令和2年4月 第45号
発行責任者 首都圏段戸会 会長 福山 透
編集者 広報担当 織田 利彦



福山透会長

(保健体育)、川浪泰郎先生(数学)で、岡高での教育経験とその後について語ってくださいました。

新元号を迎えた令和元年10月26日(土)、アルカディア市ヶ谷にて第47回首都圏段戸会総会・懇親会が開催され、216名の出席者で賑わいました。福山会長(高19回)の挨拶のあと、細井岡高同窓会長(高20回)が岡高教育基金について説明され、志高く学ぶ在校生を卒業生がサポートするよう訴えられました。また4月に赴任された柴田校長からは、最初にされたのが校歌を覚えることとで、本校校歌の歌詞の素晴らしさを語ってくださいました。さらに在校生が学業と部活動の両方で好成績を挙げていることを報告され、文武両道の精神は現在も繋がっていることを感じました。招聘恩師は平松学先生(保健体育)、吉野功先生(保健体育)、



柴田悦己学校長

な生産が達成できるといってお話をしてくださいました。専門領域に関心がある方にはさらに知見を深められたことと思います。また岡高・東大とラグビー部で活躍し、現役東大ラグビー部部長兼監督である青山さんはラグビーW杯の話題に触れ、「ONE TEAM」の流行語を生み出した日本代表のチームロゴである「プレイブロッサム」の変遷を教えてくださいました。



細井土夫岡高同窓会長

恒例の講演は東大大学院工学系研究科教授の青山和浩さん(高34回)が、「第4次産業革命が変革する『モノづくり』社会」という演題で、システムダイナミクスとシミュレーションシステムを応用して高効率の

思いを抱き、第46回総会後から首都圏段戸会の世話人会に所属させていただきます、



平松学先生

た。最前線で活躍する先輩に触れることで若い人の視野が大きく広がることでしょ。総会後の懇親会で諸先輩方と交流できることも首都圏段戸会の醍醐味です。首都圏にお住まいの方は、ぜひ「首都圏段戸会」ホームページから会員登録してください。学生会員や若い卒業生は参加費も優遇されており、どれだけ世代が離れていようと卒業生の先輩は皆さんを温かく迎えてくださいます。私も先輩方の方やさしさに触れて、後輩のために役に立ちたいという



吉野功先生

OBの素晴らしい講演でし



日高慎吾先生

さいました。今大会からラグビーを見るようになった方も多いため、ますますラグビーに関心を持つ方が増えたのではないのでしょうか。まさに文武両道の精神を持つ岡崎高校



講演 青山和浩さん(高34回)

より卒業生の参加しやすい総会づくりのお手伝いをしていきます。若い世代が同窓会に参加することによって、世代を超えた活発な議論が起こったり、同業種の先輩を繋げてもらえたりするなど、大げさでなくこの会が経済の発展につながっていることを感じました。今回は10月31日(土)です。大学生や若い世代の卒業生の参加がまだまだ少ないです。今まで参加したことがない方はぜひご参加下さい。同窓生一同お待ちしております。



川浪泰郎先生

第48回首都圏段戸会総会・懇親会予定

〔日時〕 令和2年10月31日(土) 13:00~17:00
〔場所〕 アルカディア市ヶ谷(私学会館) ……JR、地下鉄 市ヶ谷駅から徒歩2分

古希年次代表の一言

高20回 兵藤 秀和

私たち高20回生は、偶然にもこのお代替わりの年、令和元年に古希を迎えることになりました。首都圏段戸会総会にお招き頂きありがとうございます。旧交を温める機会を頂きましたこと首都圏段戸会の皆様に感謝申し上げます。

懇親会乾杯の音頭はわが同期・首都圏在住きつての論客K君が家康様の遺訓である。人の一生は……の一節を借用して「人の一生はこれからだ」と高らかに1回発声1回唱和。会場の空気は一気にやわらぎ笑いも出て、和やかな雰囲気の中、皆様と懇親を深めることが出来ました。

懇親会に先立ち行われた青山先生の講演「第4次産業革命」は、脳の活性化に役立ったような気がします。これから10年・20年先の近未来を示唆した内容で、特にこれからの車社会がどのように進化していくか長生きして見届けたい気持ちになりました。講演は難しいお話だけではなく、奇しくもラグビーワールドカップが開催中ということもあって、根っからのラグーマンということに加えて、我が国ラグビー史などラグビー談話も楽しく拝聴しました。

折角の機会なので、私と首都圏段戸会の出合いを振り返って



す。東京に嫁いだ同期S女史が高20回生世話人として早くから参画されていたようですが、私自身は、東京転勤中のS君と卒業以来の再会がきっかけで参加しました（会報のバックナンバーを調べてみると2002年に初参加）。その後は、同窓会を通じてK女史・T君・A君をはじめ多数の友人に出会うことができ、本同窓会のお陰と思っております。同窓会に感謝です。

今後の首都圏段戸会の益々のご発展をお祈りします。

総会出席者の一言

高14回 金澤 忠幸

私が首都圏段戸会総会に初めて出席したのは約15年前。30年余に亘る海外生活を終え定年退職、日本に本帰国したときでした。きっかけは記憶に有りませんが多分「いこまい会」での誘いからだと思えます。いこまい会は関東在住14回生が集まり、詳細については同期磯尾さんより会報第38号で紹介されております。私は30歳より海外開発途上国に対する開発援助の仕事に従事し、アジア、アフリカ、中東、中央アジアに加え最近南米での業務を経験しました。仕事を通じて知り合った多くの開発途上国の皆さんとは今でもネット等を通じて交流を続けています。そこで感じることは、人を人種、国籍で判断すべきでないということです。勿論、それぞれの国には異なった歴史、文化があり個人差がありますが、ざっくりいえば国籍を問わず「いい人は良い」ということかな。一方、「いこまい会」



筆者は左側

のすばらしさは卒業して40年余り会って居なかった同期生と全く違和感なく会話が始められたことかと思えます。三河弁は遠い昔となりましたが教えを受けた諸

先生の話など尽きることが在りません。最後に首都圏段戸会を運営されている幹事の皆さま、毎回素晴らしい企画有難うございます。一点、総会開催時間を11時〜14時にお考え頂けたら如何でしょうか。多くの出席者は昼食抜きで出席されており気分悪くされる方もいるかと思えます。13時頃からビュッフェとなれば嬉しいと思えます。

高21回 内藤 良江

講演会「第4次産業革命が変革するモノづくり」社会を、楽しみに出かけてきました。AI関係の仕事をしてきたので、識者の語る未来を知りたかったからです。ところが、ワールドカップで、にわかファンの増えているラグビーの話を入れるように担当

者から依頼があった様子で、ラグビーと「モノづくり」を行ったり来たりし、十分な技術紹介でした。時間



配分と内容について、もう少し打合せをしてほしかったと感じました。

さて高21回生は、次回はいいよ古希年次になります。首都圏段戸会は、「招待」になります。皆さん！周囲に、今まで参加していない同期の友人がいるならば是非誘いましょう。それと、愛知県で開催されている岡崎高校同窓会では、毎年古希年次の同期会、クラス会等が開催されているとのこと。高21回生も、「岡高21回ゴルフの会」を中心に、まず同期卒業生にメール等で連絡して周知します。

正式な案内は今年春、各クラス世話人から往復ハガキで、出席案内を送る予定です。6月7日、岡高同窓会終了後に、同期会、そしてクラス会を企画する場合は、その後にクラス会という計画が進行しています。是非、ご参加ください。

高37回 有馬 俊寛

同期の稲葉重浩君、庄司聖志君が世話役を務めた関係で、卒業から35年、初めて首都圏段戸会の総会・懇親会に出席しました。立派な会場と、喜寿を超えた方から現役大学生まで幅広い層の参加にまず驚きました。当日の年次会計報告では、このような会合の開催には金銭・人手共にかかることを再認識し、世話役の皆様

の御尽力に感謝いたします。

講演もあり、高34回東京大青山教授のIoT世界と昨今流行のラグビーを絡めたお話は興味深く、日本ラグビー協会と岡崎高校の意外な関わりをここで初めて知りました。幅広い年齢、職業が出席する懇親会は賑やか。例えば小中学が同じであったも、三年先輩故に教師から「スゴイ奴」と話でしか聞いたことのない高34回板谷さん、弟・哲史（高39回・



筆者は中央

本人は中国赴任中で欠席)の同級生の皆さん、同じ中学で実家は近所でも4年後輩で面識なかった高41回国会議員の重徳さん、懐かしい吉野先生と同級生達、日常生活のルーチンからは機会が得難い皆さんと交わす話が私には新鮮でした。そして学界・業界の懇親会等と違い、目的無く、愉快だけを求めて、そんな多様な面々と繰り出す都心の二次会は講演会の難しいお題等を肴に更に盛り上がりました。どの場面も楽しかったので次回も参加の予定です。その時は皆様よろしく願っています。

高42回 佐藤 香里

今回初めて首都圏段戸会に参加させていただきました。私は20年程前に千葉県に住んでいたことがあるのですが、その後長く岡崎に住んでおりました。一昨年一人息子(高70回)が東京の大学に入學し、さらに7月には主人が東京転勤となり、家族3人で川崎市に住み始めました。段戸会に出席することは私の悲願でしたので(千葉県在住時に出席できなかったため)今回はその願いが叶い、しかも息子と一緒に親子で参加できるといふ貴重な機会となりました。初参加で緊張していましたが、同期の



長野さん、山本さんとお会いして懐かしいお話をしたり、6月に行われた岡崎での同窓会(高42回生が幹事、私は参加できず)の様子を

お伺いしたりと楽しい時間を過ごすことができました。また、青山先生の講演会では普段お聴きすることができないような貴重なお話をわかりやすく笑いも交えてお話しくださったので大変興味深く拝聴することができました。

このような素晴らしい会を企画、運営してくださっている世話人の皆様に心から感謝いたします。岡高という繋がりで年代を問わずたくさんの方々と親交を深めることができる貴重なこの段戸会にますますたくさんの方が参加されますことを願っています。

高50回 市川 容子

関東で暮らすようになって十数年、幾度か首都圏段戸会について耳にすることはあったものの、出席する勇気がないまま毎年を過ごしていました。ところが、一昨年私の直属の課長(長野麻子さん)と室長(畑茂樹さん)が二人とも岡崎高校出身になると



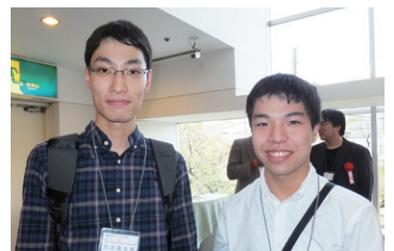
いうセンサーショナルな出来事がありました。それからというものの、「岡崎高校」が会話の頻出ワードになり、仕事の相談は三河弁で行っており、(長野課長は、愛知県より東京での生活の方が長いはずなのに、流暢な三河弁を使いこなしておられ、驚きを隠せません。)

この流れに乗って、今回、初めて首都圏段戸会にも参加させていただきました。和やかで温かい雰囲気の中、在学中、数学を教えていただいた日高先生と石川先生とお話しすることができました。当時、数学の授業についていけず、いつも段戸会世話人で同級生の鳥居福代さんに教えてもらっていたのを思い出し、懐かしい気持ちになりました。

さらには、在学時は全く知らなかった同級生の中村浩一郎さんと、お互いに在学中の出来事や共通の同級生の名前を出しながら、手探りで近づきになることができました。知りあいでもなくとも、同級生というだけで親近感がわき、仲良くなれて良かったです。また参加したいと思っています。

高70回 大池 真太郎

Good old daysという言葉がある。普通は「古き良き時代」と訳される。しかし、大学の授業で先生は、この訳の正当性は疑問だとおっしゃった。なぜなら、形容詞の語順の違いはその意味を考える上で無視し得ないものだから。それではどう訳せばよいのか。先生曰く、古き時代の全てが必ずしも良いわけではないのに、人々の目に美しく映るとすれば、それは懐かしさゆえであり、その意味でふさわしい日本語は「懐かしき昔」である……。



筆者は左側

時代は過去にのみ存在し得るものではないということに気づいた。大先輩方が母

校に有形無形の支援をなさり、岡高にとつて今が最も良き時代となるよう願っていらっしゃることを知ったからだ。また、同じテールを囲んだ比較的年齢の近い先輩方からは、社会の幅広い分野でのご活躍を感じさせるお話を伺うことができた。自分、母校、そして社会のより良き明日のため「向上の路たどらむ」とする精神は脈々と息づいている。ともに歌う校歌にほんの少し「懐かしき昔」を感じつつ、偉大な先達の姿を拝見して「わがゆくて」に改めて思いを致すことができる貴重な時間だった。このような機会を設けてくださった皆様に感謝申し上げます。

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。
公式ホームページ <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

この印象深い授業を受けて約1年が経った秋に今回の懇親会に参加して、「古き時代の全てが必ずしも良いわけではない」と同時に、良き

がんばれ！リーチ

元東芝府中ラグビー部監督
高22回 中村 賢治

「ヤシの実抱えて何しとる!？」と言われながら、岡高でラグビーを始め、早稲田、東芝府中（現東芝）と、選手・コーチそして監督も経験しながら、多少の濃淡はありますが、半世紀。私とラグビーとは50年を越えた付き合いとなりました。そのラグビーの人氣が昨年のワールドカップで最高潮となり、年が改まった今も余韻以上のものが残っていると感じています。

人氣となった一番の要因は、何といても日本代表の「ONE TEAM」にあったことは間違いありません。どのチームにも負けない練習を積み上げた自分たちを信じて、一試合一試合、それを確認しながら勝利を重ねていく姿には神々しささえ感じました。2試合目のアイルランド戦の勝利で期待と人氣が一気に高まり、サモア戦を挟んでスコットランド戦までの2週間、にわかファンを巻き込みながら、それが日に日に大きくなっていくことがわかりました。そして迎えたスコットランドとのガチンコ勝負、高速アタック・オフロードパスによる攻撃と、筆舌に尽くしがたい守りで耐えて耐えて勝ったことでラグビー人氣は沸点を超えてしまったと感じました。

更に今回は、日本で開催されたことで、例えば日本代表の多様性といったラグビー独特の「ありよう」を身近に見聞きし、感じる機会となりましたが、それらが思いのほか好意的に受け止められたことも、ラグビー人氣の要因の一つとなっていると言われています。今回のラグビー人氣、私にとっては連れ合いを褒め



2019年ラグビーワールドカップ
日本代表キャプテン
リーチマイケル選手と
(東芝ラグビー部トップリーグ社行会にて)

られているように感じており、改めて、ラグビーというスポーツに感謝しなければならぬと思っています。

さて、今回の一番の功労者はだれでしょう？ 私はずっと先にキャプテンリーチマイケルの名を挙げます。前大会の南ア戦を、同点ではなく勝ちに繋げたのは彼の判断・選択であり、「南アにも勝てるんだ！」という強いメッセージを日本代表に残しました。また、二人のヘッドコーチの元で、選手の先頭に立つて過酷な練習と向き合い、「ONE TEAM」のかなめの役割を果たした彼には敬服の一言しかありません。そのリーチが「次回大会まで頑張る。」と明言しました。強い味方です。現在31歳、心配なしとは言えませんが、期待と楽しみを2023年フランス大会まで伸ばしてくれました。「がんばれ！リーチ」

東京オリンピックを 目指して

日本陸上競技連盟強化委員長
山梨学院大学教授／陸上競技部長
高31回 麻場 一徳
2020年を迎え、いよいよ東京オリンピックが開催されます。

私は現在、日本陸上競技連盟の強化委員長を務めており、特にこの3年間、アスリートたちが東京の舞台で素晴らしいパフォーマンスを発揮できるように、様々な取り組みをしてきました。強化委員長というのは、現場を統括する立場にあります。世界選手権やオリンピックなど大きな国際試合に出場するときは、代表選手団の監督も務めます。おそらく、東京オリンピックでも陸上競技の日本代表選手団監督を務めることになるでしょう。監督という選手に技術指導をしたり、作戦を授けたりすることが思い浮かぶでしょうが、陸上競技の場合は、それはコーチの仕事になります。各種目に専門性の高い代表コーチがいて、彼らが選手たちを直接コーチングします。監督はというと、それらのコーチングが円滑に進んでいくようにマネジメントする立場で仕事をします。プロ野球で言えばGMの立場といったところでしょうか。

陸上競技は、100mからマラソンまで、あるいは、投てきや競歩といったように競技特性の違った種目が寄せ集まっでできている競技ですから、それらをONE TEAMにまとめることは、なかなか難しいところです。個人競技だからそれぞれが別々の方向を向いていても良いだろうと思いかもしませんが、やはり、オリンピックなどでは、チームが一体化して好影響・好循環、相乗効果をもたらすようなマネジメントが実現しないと、思ったような成績は残せません。ましてや、今突然、「マラソンと競歩を札幌で開催する」と言われたものから、どうやってチームをまとめようかと頭を悩ませているところでは、大変なことが多いのは事実です。常に



2016年リオデジャネイロ五輪時に男子400mリレーで銀メダルを取ったメンバーと（筆者は中央）

問題対応、課題解決と向き合いながら日々を過ごしています。最近では、マラソン、競歩の札幌移転問題、リレーで金メダルを狙うための個人種目制限問題、世界陸連がナイキのシューズ使用禁止を検討している問題、などがよく知られているかと思いますが、これらの問題に対しては、常に現場の立場に立って、いわゆるアスリートファーストで取り組んでいきたいと思っています。これからも、様々な難問にぶつかりながら進んでいくことと思いますが、半世紀に一度の貴重な機会にこのような立場で関わられることに感謝しながら本番に向かっていきたいと思えます。

と同時に、昨今の競技スポーツにおいては、国民の多くの方々に興味関心を持っていただき、応援を得ることが大切です。東京オリンピックにおける陸上競技選手団の活躍にご注目いただけたら幸いです。

キャリアアップ

高58回 岩間 亮

現在、私は生物学者としての道歩んでいますが、ここに至るまでに様々な人・環境が私を育ててくれました。特に、岡崎高校での経験は、始まりとして非常に大きなきっかけでした。私は岡崎高校がスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定2年目であった2003年に入学し、中学で「科目としての理科」が得意だった」という何気ない理由でSSH部に入部しました。そこで、隣の大学や各研究所にお世話になり、様々な経験をさせてもらう中で「理科」ではなく「科学」に興味を持つようになっていきました。当時、SSH部内では主に化学班として活動し、東大薬学部での研究室体験も経て、いつしか有機化学分野に強い興味を抱いていました。

このように言いながら、現在、私は生物系研究者なのですが、これには高校3年時に国際生物学オリンピックに日本代表として参加した経験が決定的な役割を果たし、そのときに「生物学が面白い」と感じて現在に至ります。東京大学入学後は生物の中でも酵母に興味を持ち、農学部進学後に酵母を扱う研究室に所属しました。そこで、研究者としての基礎をしっかりと教育していただき、博士号を取得することができました。

その後、東京工業大学の大隅良典先生



2016年10月3日、大隅先生のノーベル賞受賞が決定した日の記念撮影（筆者は左から2番目前方）

の研究室に所属する機会を得ました。農学部では得られない視点も多く学べ、現在の研究の考え方の基盤となっています。余談ですが、大隅先生は以前、岡崎高校近くの基礎生物学研究所で研究室を主宰されており、私が研究に興味を持った高校時代に近くにいらつしやっただけで不思議な縁だと感じています。

現在、東京大学農学部で助教として勤務し、新たなテーマに取り組んでいます。ここでの経験がまた私を育ててくれると思いますし、私も学術界に貢献できるような研究に邁進します。また、国際生物学オリンピックの日本代表を引率する機会に入る機会を得ていますが、これらの活

動を通して、私を育ててくれたような環境を次の世代にも提供したいと考えています。

世話人リレーエッセイ

高40回 大田 武

高40回の大田武と申します。数年前より会計担当として、主に同窓会会員の皆様からお預かりする運営協力金の管理保管業務に携わっています。業務は極めて地味なもので、これといった特別な能力は必要ありません。指定口座に振り込まれる運営協力金の明細の確認と記録、そして帳票の保管が主な仕事です。至極単純な作業ではありますが、少々難儀な点もあります。何かと申しますと、単調ではあるもののミスは絶対許されない点です。皆様から振り込まれる協力金に関する情報は日々更新されます。いつ、どんなから、いくらお預かりしたかという内容が、世話人を中心とする運営者サイドに正確に共有されてこそ、同窓会の健全な活動が可能となります。首都圏段戸会には運営協力金をはじめとして、会員の皆様から毎年400件程度の振り込みがあります。また、例年秋に実施される総会が近づくと、事前の会費振込なども重なり、業務もこの頃が繁忙のピークとなります。私も未だ現役の勤め人であり、仕事の合間を縫ってということになります

が、同窓会運営に欠かせない仕事ですから、一定の時間を確保して、ミスの無いよう慎重に作業しております。

総会と言えば、会計担当総出で行う当日受付時の会費の徴収業務もまた、会計担当の重要な役目のひとつです。事前の打ち合わせ通り、多量の現金收受と正確な記帳を、正確かつ時間内に事故なく完了させた時、毎年のことながら担当者全員の前で安堵の表情が浮かびます。会員の方からお預かりする大切なお金を、「首都圏段戸会会則」に従ってきちんと管理することは、同窓会の日常的な運営、そして今後の発展の基盤となるものです。IT技術を使った最新のサービス等も十分活用しながら、迅速、正確、効率的をモットーに会計担当者一同、首都圏段戸会の発展に微力ながら貢献できればとの思いで日々努力しております。



筆者は左側

段戸音楽会 ミニコンサートの進化

高58回 石川 航己

初めてのミニコンサートは池袋のカフェで行いました。おいしい食事ができること、演奏ができること、参加者が集まること、身の丈にあっている（会費を安くすること、もちろんビールも飲めること等々、多数の要望を満たす必要がありました。東京中を探し回って、ようやくたどり着いたのが池袋のカフェでした。

翌年も同じ会場でやろうと思ったのですが、「もっと身の丈に合わせた方がよいので、料理は持ち寄りにしよう」との意見があり、別の貸スタジオに変更しました。「料理持ち寄り」のアイデアは大変成功しまして、各自持ち寄りの料理やお酒で大変賑やかな会になりました。もちろん演奏もしました。設備も綺麗で、飲食にも寛大なオーナーさんで、とても



あ〜ちゃんHOUSEでのミニコンサート参加メンバー（筆者は右端）

良いスタジオでした。しかしながら、人が入りきらないという問題が顕在化し始めました。困っていると、大物OBの紹介で音楽専門学校のホールを使えることになりました。ここは、広くて音響も完璧で演奏には最適な会場でした。合唱部OBが歌っても十分な広さがあります。フラダンスも存分に踊れます。ただし「学校」なので、ビールが飲めませんでした。我々は広さを手に入れた代償にビールを諦めました。

専門学校の問題は授業やレッスンはあるが、当然そちらが優先されることですので、そしてもっと予約が取れない事態が発生しました。途方に暮れていると、某OGのスタジオの噂が流れてきました。私は恐る恐る連絡を取りました。話によると、ん拍子に進みました。そのスタジオの名前は「あ〜ちゃんHOUSE」。そこは、演奏も料理もできるミニコンサートにとってパーフェクトなスタジオでした。特に調理設備は素晴らしく、持ち寄りの料理のレベルが格段に上がりました。料理がおいしいと演奏の質も上がります。しばらくはここで開催することになるでしょう。様々な岡高OB OGの方々を支えられ、段戸音楽会のミニコンサートも今ではすっかり恒例行事となりました。今後も未長く続けられるようご支援よろしくお願ひします。

段戸サークル活動報告 「囲碁会」の紹介

高13回 藤田 訓弘

時は平成10年に溯ります。当時、首都圏段戸会総会は浜松町のメルパルクで開



筆者は左から2人目

催されていきました。その年の総会参加者が100名を切り、当時の服部登会長が大変心配されていきました。その年に経営・人材教育コンサルタントとして独立した私に、世話人になって同窓会の活性化（総会参加者の増員が主目的）を依頼されました。翌年に活性化委員長として他の世話人と共に色々検討した時、総会は年に一度、これでは交流は無理。そこで総会後も交流ができるようにするためには趣味の会を造るのが一番！と考え、囲碁、音楽、登山、お花、ゴルフ、野球、テニス、英会話、旅行／グルメ、等々15の趣味の会を立ち上げ、世話人に各会のリーダーになって頂き、活性化を図りました。その結果、その年の総会参加者は160名と一気に1.6倍（私の学年は28名が参加、これは未だに破られていません）に増え、メルパルクでは手狭になったので、今の私学会館を探して移ったのもその翌年です。しかし、こう

いう趣味の会はリーダー次第でして、徐々に消えて行き、今では囲碁、音楽、俳句、登山、胃文化の5つだけになっています。

囲碁の会は学士会館で毎月第一日曜日に例会を開催していましたが、今は名大の囲碁同好会「東山会関東囲碁会」と合同で開催しています。13年前に時習館高校の囲碁同好会と対抗試合を立ち上げ、年2回、幹事交代制で開催され、去る9月25日に第25回大会が行われました。通算成績は岡高の15勝7敗3分となりました。通算成績は岡高の15勝7敗3分となっています。13年も続くと、時習館高校の卒業生にも親しい人ができ、岡崎高校以外にも人の輪が広がる喜びを共有化しています。囲碁はボケ防止に最高で、また子供達の礼儀作法の鍛錬にも有効ということで、最近では小学校で正規の授業として取り入れていく学校もあるようです。

初心者大歓迎です。囲碁をやりたい人は気軽にご連絡下さい。囲碁をやりたい人は早川慎吾さん（高32回）に引き継いでいます。

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

“段戸囲碁会” 幹事：早川 慎吾（高32回）
hayakawa@a00.itscom.net

“段戸音楽会” 幹事：石川 航己（高58回）
koki.ishikawa.49@gmail.com

“段戸句会” 幹事：野村 親信（高16回）
nomurac@jcom.home.ne.jp

“段戸山の会” 幹事：満江 信之（高15回）
nmitsue@ae.auone-net.jp

“胃文化交流会” 幹事：都築 正行（高19回）
masa_tsuzuki2000@yahoo.co.jp

令和元年度 会計報告・監査報告

会計及び会計監査の方々のご尽力により、令和元年度会計報告・監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。
 なお、会計報告・監査報告は、次回首都圏段戸会総会（令和2年10月31日開催予定）において、会員の皆様の承認を経て確定します。

貸借対照表

令和元年12月31日現在		(単位：円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		I 収入の部	
通常貯金	1,026,038	10月総会懇親会会費収入	1,220,000
振替口座	1,096,385	10月総会時運営協力金	349,000
資産合計	2,122,423	運営協力金	1,158,000
II 負債の部		寄付金	70,000
未払金	0	受取利息	12
負債合計	0	当期収入合計	2,797,012
III 正味財産の部		II 支出の部	
正味財産	2,122,423	10月総会懇親会費用	1,340,315
負債及び正味財産合計	2,122,423	会報費用	959,194
		世話人会費用	106,273
		ホームページ維持費	5,832
		後納郵便料	42,066
		経費振込手数料	5,006
		運営協力金振込手数料	61,615
		当期支出合計	2,520,301
		当期収支差額	276,711
		前期繰越収支差額	1,845,712
		次期繰越収支差額	2,122,423

収支計算書

平成31年1月1日から令和元年12月31日まで		(単位：円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 収入の部		10月総会懇親会会費収入	1,220,000
10月総会懇親会会費収入	1,220,000	10月総会時運営協力金	349,000
10月総会時運営協力金	349,000	運営協力金	1,158,000
運営協力金	1,158,000	寄付金	70,000
寄付金	70,000	受取利息	12
受取利息	12	当期収入合計	2,797,012
当期収入合計	2,797,012	II 支出の部	
II 支出の部		10月総会懇親会費用	1,340,315
10月総会懇親会費用	1,340,315	会報費用	959,194
会報費用	959,194	世話人会費用	106,273
世話人会費用	106,273	ホームページ維持費	5,832
ホームページ維持費	5,832	後納郵便料	42,066
後納郵便料	42,066	経費振込手数料	5,006
経費振込手数料	5,006	運営協力金振込手数料	61,615
運営協力金振込手数料	61,615	当期支出合計	2,520,301
当期支出合計	2,520,301	当期収支差額	276,711
当期収支差額	276,711	前期繰越収支差額	1,845,712
前期繰越収支差額	1,845,712	次期繰越収支差額	2,122,423
次期繰越収支差額	2,122,423		

監査報告書

首都圏段戸会の令和元年度（自平成31年1月1日 至令和元年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

令和2年1月21日

会計監査 辻村 貴典

会計監査 戸田 謙三

令和2年 首都圏段戸会 世話人名簿

- (高2回) 服部 登 鼎
- (高3回) 丹羽 弘 政
- (高6回) 有馬 利 久
- (高7回) 是津 嘉 久
- (高8回) 杉浦 中 厚
- (高9回) 田中 敏 夫
- (高10回) 宇佐美 敏 利
- (高11回) 太田 栄 之
- (高12回) 永田 宏 男
- (高12回) 鶴成 文 徹
- (高13回) 中 浩 之
- (高14回) 磯尾 鏡 子
- (高15回) 水谷 鏡 子
- (高15回) 神谷 信 広
- (高16回) 横井 昭 親
- (高17回) 伊田 正 彦
- (高18回) 山田 博 子
- (高18回) 伊藤 邦 宏
- (高18回) 清水 昌 久
- (高19回) 山内 雄 恵
- (高19回) 都築 正 行
- (高20回) 福山 隆 透
- (高20回) 天野 貴 郎
- (高21回) 小栗 恵 子
- (高21回) 山田 俊 文

- (高22回) 上田 洋 子
- (高22回) 中村 賢 治
- (高23回) 野々山 浩 寛
- (高25回) 戸田 讓 三
- (高26回) 織田 利 彦
- (高27回) 長田 光 雄
- (高27回) 岸 洋 平
- (高28回) 山崎 正 枝
- (高28回) 酒井 邦 彦
- (高30回) 米津 智 徳
- (高31回) 石田 満 理
- (高31回) 高原 正 之
- (高32回) 岩間 由 紀
- (高33回) 堀内 典 二
- (高33回) 小出 祐 子
- (高33回) 鈴木 本 岳
- (高34回) 板谷 敏 正
- (高34回) 井上 美 子
- (高35回) 糸井 真 由
- (高35回) 小川 美 季
- (高35回) 菅 伸 介
- (高36回) 平松 理 生
- (高37回) 稲葉 浩 志
- (高37回) 庄司 聖 和
- (高38回) 中西 幸 和
- (高40回) 大田 武 武

- (高41回) 立山 秀 利
- (高41回) 中鉢 朋 子
- (高42回) 長野 麻 妙
- (高43回) 五松 直 樹
- (高44回) 尾十 貴 之
- (高45回) 筒井 瑞 大
- (高46回) 西浦 博 博
- (高46回) 朝岡 川 博
- (高47回) 大杉 づ お
- (高47回) 杉本 い さ
- (高49回) 丹羽 尚 代
- (高50回) 鳥居 福 雄
- (高50回) 清水 佳 子
- (高52回) 藤近 貴 直
- (高53回) 石辻 内 康
- (高54回) 安藤 尚 亮
- (高54回) 石岡 加 藤
- (高57回) 川口 敦 子
- (高58回) 石川 己 亮
- (高58回) 岩間 田 亮
- (高59回) 嶋 健 巨
- (高60回) 多木 貴 之
- (高61回) 鈴木 文 香
- (高62回) 中原 津 史
- (高63回) 栗河 宏 峻
- (高64回) 吉兼 康 啓
- (高64回) 鈴木 木 聡
- (高64回) 扶 瀨 史 聡

編集後記
 今年のビッグイベントの一つとして東京オリンピック・パラリンピックが挙げられます。本号ではスポーツ特集を組み、著名なお二方に寄稿いただきました。まずは人気沸騰中のラグビーを取り上げ、早大、東芝といった名門チームを歩まれた中村さんに執筆いただきました。中村さんは選手として活躍され、東芝府中の監督を務められました。その間、日本選手権等、数々の優勝経験をお持ちです。続いて、リオデジャネイロオリンピックで陸上日本代表選手団監督を務められた麻場さんから原稿をいただきました。麻場さんは現役時代に世界陸上選手権出場などに出場され、現在は山梨学院大で教鞭をとられる一方、日本陸連強化委員長としても活躍中です。さて、定番となる最初の記事は「総会・懇親会報告」です。今回は高30回台以降の方々の参加が目立ったことが特徴で、全体の半数近くに達しました。出席者のもっとも多い年次に贈られる総会グランプリは高34回が受賞し、岩崎さんから喜びの声をいただきました。次に、若い方々を対象とした「キャリアアップ」ではノーベル賞受賞の大隅教授のもとで研究されたきた岩間さんに寄稿いただきました。また、「世話人リレーエッセイ」は当会の財務を支える会計担当の大田さんから発信され、さらに、老若男女が集う「段戸サークル活動」として音楽の会と囲碁の会から報告をいただきました。老いて益々壮なるべしという諺がありますが、囲碁の会では喜寿を超えた方々がまだ元気で活動されており。

(織田)